

各関係機関長殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したの送付します。

令和8年度病虫害発生予報第3号

令和8年5月28日  
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ ニカメイガ	並 — — —	並 少 並 並
ジャガイモ	疫病	並	並
モモ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— <b>やや早</b> — 遅 — —	やや少 並 やや少 やや少 <b>やや多</b> <b>多</b>
ブドウ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 フタテンヒメヨコバイ	<b>やや早</b> <b>やや早</b> <b>やや早</b> 遅	並 並 並 少
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	並 — 並	並 並 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— — 並	やや少 <b>やや多</b> 並
ダイコン	軟腐病 コナガ	並 —	並 並
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	並 並 <b>やや多</b>
キク	白さび病 ナミハダニ	並 並	並 <b>やや多</b>

## 1. 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 育苗箱施用剤の残効は40～60日とされており、5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

#### (2) ヒメトビウンカ

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察ほ場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は28頭であり、平年（73.8頭）より少なかった。

#### (3) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ（第1世代成虫） 並

予報の根拠

ア. 県予察ほ場における5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生量は2頭であり、平年（1.2頭）並であった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

#### (4) ニカメイガ（越冬世代成虫）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月4半旬までに平年と同様誘殺は認められなかった。

### (ジャガイモ)

#### (1) 疫病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月1日の巡回調査によると、平年と同様発生は認められなかった。

イ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 発生ほ場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

## 2. 果 樹

### (モ モ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月8日の巡回調査によると、花腐れの発生は認められず（平年14.7%）、5月21日の巡回調査においても芽枯れ、枝病斑の発生を認めなかったことから、幼果への感染量は平年より少ないと考えられる。

イ. 5月21日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや早く推移している。

イ. 5月21日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平年並に少なかった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日（果実生長第2期以降は20日）とされている。5月中旬の降水量は平年よりやや少なく、幼果への感染は平年よりやや少ないと考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、発病葉の発生ほ場率は7.1%で平年（20.0%）より低かった。

イ. 5月21日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

ウ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生と関係の高い「昨年の8月中旬の発生ほ場数」（岡山県病害虫防除所調査）は平年より少なかった。

(4) モモハモグリガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月24日までに誘殺は認められず、平年（5月20日）より遅い。

イ. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は0頭で、平年（0.2頭）より少なかった。

ウ. 5月21日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年（0%）並だった。

エ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は10頭で、平年（1.2頭）よりやや多かった。越冬世代成虫の誘殺数（4月）は102頭で平年（46.2頭）よりやや多かった。

イ. 5月21日の巡回調査によると、心折れの発生ほ場率は10.7%で、平年(5.7%)よりやや高かった。

ウ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件である。

#### (6) カメムシ類

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は87頭で、平年(25.3頭)より多く、ツヤアオカメムシの誘殺数は12頭で平年(21.7頭)より少なかった。フェロモントラップでのチャバネアオカメムシ誘殺数は2,089頭で、平年(168.6頭)より多かった。

イ. 5月21日の巡回調査によると、発生ほ場率は14.3%で平年(9.7%)よりやや高かった。

ウ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件である。

エ. 病害虫発生予察注意報第1号(令和8年5月19日発表)参照。

#### (ブドウ)

##### (1) ベと病

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 **並**

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育は平年よりやや早く推移している。

イ. 県予察ほ場のピオーネ、シャインマスカットにおいて、平年と同様に5月下旬まで発生を認めていない。

ウ. 5月21日の巡回調査によると、平年と同様発生は認められなかった。

エ. 5月21日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

##### (2) うどんこ病

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 **並**

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育は平年より早く推移している。

イ. 5月の日照時間は平年より長く、本病の発生をやや助長する条件となる。

ウ. 5月21日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

##### (3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 **並**

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育は平年より早く推移している。

イ. 5月21日の巡回調査によると、平年と同様発生は認められなかった。

ウ. 5月21日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

##### (4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で平年(2.7%)より低かった。

イ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件である。

### 3. 野菜

#### (トマト)

##### (1) 疫病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(2.5%)並であった。

イ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

##### (2) 灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査によると、発生ほ場率は40.0%で平年(35.6%)並であった。

イ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

##### (3) 葉かび病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査によると、発生ほ場率は40.0%で平年(34.5%)並であった。

イ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 本病の初発生時期(雨除け栽培トマトでは6月下旬～7月上旬)と病勢進展時期(7月下旬～8月上旬)に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

#### (キュウリ)

##### (1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査によると、発生ほ場率は16.7%で平年(25.3%)よりやや低かった。

イ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か



頭)より少なかった。

イ. 5月21、22日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年並であった。

トマト、キュウリ及びダイコンにおいてモザイク病の発生は認められず、発生ほ場率は平年(キュウリ:5.0%、トマト:0%、ダイコン:2.0%)並であった。

ウ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並が多いとされており、本虫の発生をやや助長する条件である。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並が多いとされており、本虫の発生をやや助長する条件である。

#### 4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月20、21日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(1.9%)並であった。

イ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並が多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生時期 並

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で平年(5.1%)並であった。

イ. 5月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並が多いとされており、本虫の発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

